



本市においては、古くから低地部には田園、台地部には山林や畑地が広がり、里山などの豊富な自然環境が見られます。また、木下・小林地区を代表とする水運や鉄道といった交通の拠点を中心にまちなみが形成され、現在まで営みが続いている既成市街地と、千葉ニュータウンを代表とする住宅などの需要に応じて計画的に創られてきた新市街地が形成されています。

地域によって様々な特色がある本市において、日常的な暮らしを支える機能を備えた魅力ある地域を形成することで、地域間の魅力を相互補完し、市域全体の相乗的な魅力の発揮につながります。また、人・モノをスムーズに運び、地域間の魅力をつなげて活力を支えるネットワークを形成するため、子どもや高齢者も安心して便利に移動できる公共交通網の整備が重要になります。

近年、全国的に人口減少や少子高齢化が進み、豊かな生活を持続的に支えていく都市づくりが求められ、コンパクト・プラス・ネットワーク*の都市構造へ誘導していく考え方が広がっており、本市においても、令和10年以降は、人口減少や少子高齢化の傾向へゆるやかに向かっていくことが予測されているところです。

また、令和2年に、新型コロナウイルスの感染症が流行し、日本においても生活や経済に影響を及ぼしたことから、今後は、感染症がもたらす人々の生活様式の変化にも対応した都市づくりが求められています。

そこでそのような背景を踏まえ、本都市マスタープランでは、来街者も含め市内で活動する方々（住む、働く、訪れるなど）の多様なライフスタイルを実現できる都市を目指し、「①地域の魅力が輝くまちづくり」、「②みんながつながるネットワーク」により、「快適で、魅力的、持続的に発展する都市」を都市づくりの基本理念とします。

